

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立中川副小学校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童(中学校3年生生徒)

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
  - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

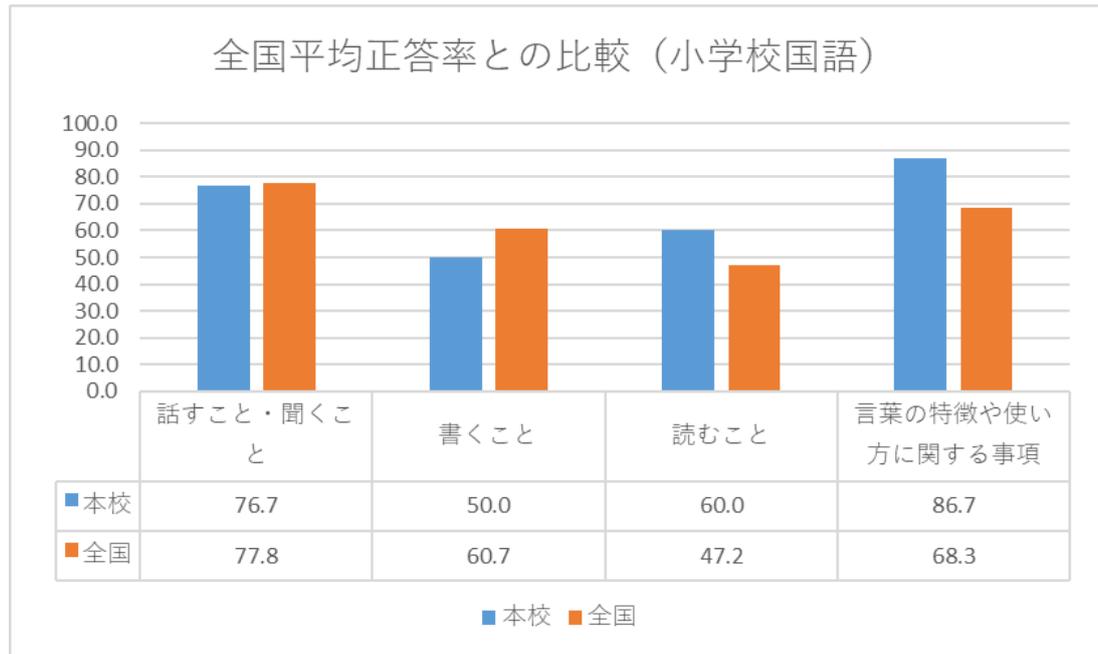
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

#### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語



#### (1) 結果

平均正答率をみると、本校 74(%)は全国平均 64.7(%)を大きく上回りました。4領域のうち2領域「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均正答率を大きく上回りましたが、「書くこと」の領域では下回りました。また、本校の無解答率は全国平均と比較すると低くなっていますが、「書くこと」の領域においてはかなり高くなっています。

#### (2) 成果と課題

今回の調査で、「読むこと」が 12.8 ポイント、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が 18.4 ポイントと大きく上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。問題形式別にみても、「選択式」「短答式」「記述式」のいずれも全国平均を上回りましたが、「記述式」の正答率を上げることが課題として残りました。正答率 50%は、全国平均正答率 40.2%を上回っているものの、指定用語の使用や文字数制限など条件付きの記述問題に対し苦手意識があるようです。これからは単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にあります。授業改善を図り、日々の授業で子どもたちが主体的に学び、互いの考えを深める力を付けていくことが重要であると捉えています。

#### 話す・聞く

- 必要な情報を得るために、話し手の意図を捉えながら聞くことができます。一方で、話の展開に沿って、質問を工夫し、自分の考えをまとめたり伝えたりすることに課題があります。スピーチタイム等を通して、資料活用の有用性に気付かせながら、「話す・聞く力」を高めていきます。

#### 書く

- 自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考えたり、目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えを伝えたりすることに課題があります。特に、指定用語の使用や文字数制限など条件付きの記述問題になると、無回答率がやや高いことから、慎重に考えすぎて時間が足りなかったり、自分の考えに自信がもてなかったりしていることが考えられます。日々の授業で、条件付きでの書く活動を積極的に設定していきます。

## 読む

- ・ 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けたり、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したりすることについては、全国・県平均と比べ大きく上回っています。

## 言語事項

- ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使ったり、文中における主語と述語の関係や修飾語と被修飾語の関係を捉えたりすることは、全国・県平均と比べ大きく上回っています。

### (3) 学力向上のための取り組み

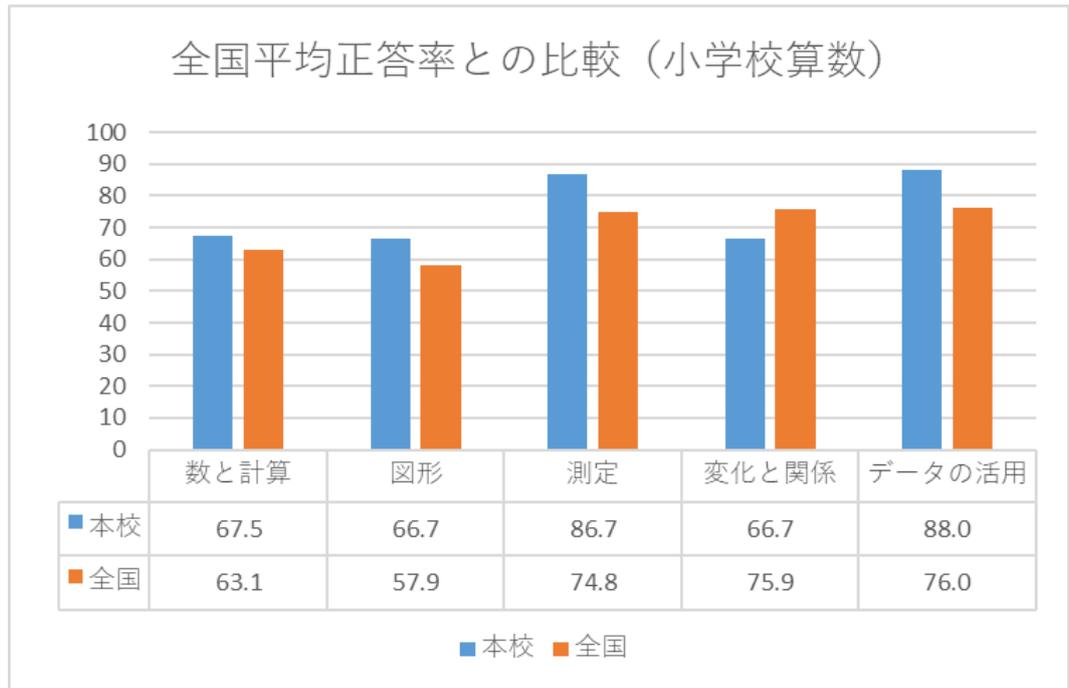
#### 【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。具体的には、何をどのように書いているのか、何を話して（聞いて）いるのかを学ぶだけに留まらず、それらの目的や理由、効果などについても考える学習の場面を設けていきます。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。また、漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書や個人タブレット等を活用させ、語彙力を増やします。
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができるように指導を工夫していきます。

#### 【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましょ。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。すき間読書をするすることで、読書習慣を身に付けることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

## 2 算 数



### (1) 結 果

平均正答率をみると、本校 75(%)は全国平均 70.2(%)を大きく上回りました。5領域のうち4領域「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」は、全国平均正答率を上回りましたが、「変化と関係」の領域では下回りました。また、本校の無解答率は全国平均と比較すると低くなっていますが、各大問の最後に無解答率が高くなっています。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、全国平均正答率を「A 数と計算」4.4ポイント、「B 図形」8.8ポイントと上回り、「C 測定」「E データの活用」ではそれぞれ11.9ポイント、12ポイントと大きく上回りました。昨年度の佐賀県学習状況調査において、「E データの活用」に課題がありましたが、データを分類整理する力が高まってきたことが分かります。一方、「D 変化と関係」の領域では、9.2ポイント全国平均正答率を下回っています。新学習指導要領より「速さ」についての学習を第5学年(前学年)の終盤で取り扱っており、理解が十分でないことが分かります。問題を解くスピードや多様な視点から問題の主旨を読み取ることなどに課題があると考えます。

日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させるなど授業改善を図ります。また、子どもたちが主体的に学習に取り組んだり、協働して互いの考えを深め合ったりするよう支援していきます。

#### 数と計算

- 示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することはできています。しかし、示された除法(わり算)の結果について、日常場面に即して判断することに課題があります。また、割合を考える場面で、それぞれの数値が表す意味や根拠を明確にしながら自分の考えを伝えることに課題があります。

#### 図形

- 図形の性質や構成要素、求積(面積を求める)についてよく理解できています。

### 測定

- ・ 示された場面の状況から、必要な数値を選び、答えとその求め方を記述したり、条件に合う時刻を求めたりすることはできています。

### 変化と関係

- ・ 「速さ」「道のり」「時間」の学習では、それぞれの関係について考察することに課題があります。
  - ① 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係についての考察
  - ② 速さと道のりを基に、時間を求める立式
  - ③ 速さを求める除法（わり算）の式と商の意味についての理解

### データの活用

- ・ 棒グラフや帯グラフからの必要な情報の読み取りやデータの二次元の表への分類整理については十分できています。しかし、集団の特徴を捉えるため、情報を収集したり、選別したりすることには課題があります。

## (3) 学力向上のための取り組み

### 【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図と具体的な場面を交互に見ながら考えさせるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、ペア、グループ、全体など様々な形態で話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力・表現力の向上に努めます。
- 個別指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見付け、補充指導に努めます。

### 【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉を掛けてください。
- 算数が好きになるには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものが意外とあります。

### 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果 《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	90 %	85.8 %
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	10 %	38.3 %
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	40 %	55.0 %
自分にはよいところがあると思いますか。	60 %	36.2 %
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	20 %	24.4 %
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	70 %	75.4 %
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	100 %	84.1 %

朝食・起床・就寝については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校が協力して、習慣化していきましょう。また、先を見通す力が高まってきたことで、挑戦しようとする態度が全国と比べて消極的になっているようです。様々な経験を通して、自己肯定感を高めていくことができるように支援したいと思います。一方、規範意識の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

#### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	30 %	31.2 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0 %	11.6 %
「2時間以上、3時間より少ない」	40 %	15.3 %
「1時間以上、2時間より少ない」	30 %	35.6 %
「30分以上、1時間より少ない」	20 %	24.5 %
「30分より少ない」	10 %	9.5 %
「全くしない」	0 %	3.5 %
新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。	0 %	29.8 %

家庭学習について、全くしていない児童はいませんでした。1時間未満の児童が3割いました。中にはかなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、新型コロナウイルス感染症拡大による児童の心の問題も、大切な課題であると捉えています。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。これから中学年にも少しずつ広げていきます。
- 始業前（8：05～8：15）の朝の読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が現れてきているので、これからも継続していきます。

##### 【ご家庭では】

- 規則正しい生活と家庭学習の定着は、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。